

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	— (—)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	大分市 (44201)
地域名 (地域内農業集落名)	大南1 (米良・板山, 小岳・立小野・昆布刈・下高江・上高江・東新川・西新川・宮ノ原, 中ノ原・豊田)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	89.75 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	89.75 ha
② 田の面積	67.62 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	22.13 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	4.13 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	4.13 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	— ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	— ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

【地域の基礎データ】

主な作物等: 水稻、ミカン、露地野菜

- ・農家の大部分が自己所有地を耕作する小規模農家である。
- ・担い手不足により、耕作放棄地が増加傾向にある。
- ・人手は少ないが、困りごとには近隣住民同士で助け合う風土がある。
- ・一部(米良)で基盤整備事業を実施した。未整備地区では、農地の形状が悪く、非効率的な耕作を行わざるを得ない。
- ・農作物(米、ミカン)の評判が良い。
- ・鳥獣被害(シカ・イノシシ)がある。地域で対策しているが、効果が限定的である。猟友会も高齢化している。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・水稻を中心とした農業を継続する。
- ・農家の組織化を行い、小規模農家による経営から広いエリアを対象とした集落営農法人等への農地集積・集約化ができないか検討する。
- ・地域で農地管理の取決めを定め、地域を荒廃させない取組を進める。
- ・移住者の呼び込みと、地区外への人の流出を防ぐことによって担い手を確保する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地利用は、目標地図に位置付けられた者等が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	6.17	%	将来の目標とする集積率
			90 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
農地中間管理機構の活用により、農地の集積を進めている。今後も集積を継続しつつ、集団化(集約化)への取組に力を入れる。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
農地中間管理機構を通じ、目標地図に位置付けられた者への集積・集約化を図る。
(2)農地中間管理機構の活用方法
集約化を目指し、農地所有者による農地中間管理機構への貸し付けを進める。
(3)基盤整備事業への取組
一部(米良)で基盤整備事業を実施済である。 今後の予定はない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
地域内外から多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、県、市、農業委員会、JA、農地中間管理機構と連携し、相談から定着まで切れ目ない取組を進めていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
—

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒	①鳥獣被害防止対策	☐	②有機・減農薬・減肥料	☐	③スマート農業	☐	④畑地化・輸出等	☐	⑤果樹等
☐	⑥燃料・資源作物等	☐	⑦保全・管理等	☐	⑧農業用施設	☐	⑨耕畜連携等	☐	⑩その他

【選択した上記の取組内容】

① 当面、個々で対策を講じる。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

※公表用

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 15 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	1	ピーマン・イチゴ	0 ha	0 ha	ピーマン・イチゴ	0.34 ha	0 ha	認農A	
認農	2	露地野菜	2.75 ha	0 ha	高菜・水稻等	2.75 ha	0 ha	認農B	
利用者	3	カボス・露地野菜等	0.68 ha	0 ha	カボス・露地野菜等	0.68 ha	0 ha	利用者A	
認農	4	水稻・麦類作	0.34 ha	0 ha	水稻・麦類作	4.13 ha	0 ha	認農C	
利用者	5	カキ・ウメ	0.89 ha	0 ha	カキ・ウメ	0.89 ha	0 ha	利用者D	
利用者	6	栗	0.13 ha	0 ha	栗	0.13 ha	0 ha	利用者E	
利用者	7	タマネギ・ジャガイモ	0.05 ha	0 ha	タマネギ・ジャガイモ	0.05 ha	0 ha	利用者F	
利用者	8	水稻	0.70 ha	0 ha	水稻	0.70 ha	0 ha	利用者G	
計	8経営体		5.54 ha	0 ha		9.67 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)	うち計画同意者数(人・%)

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

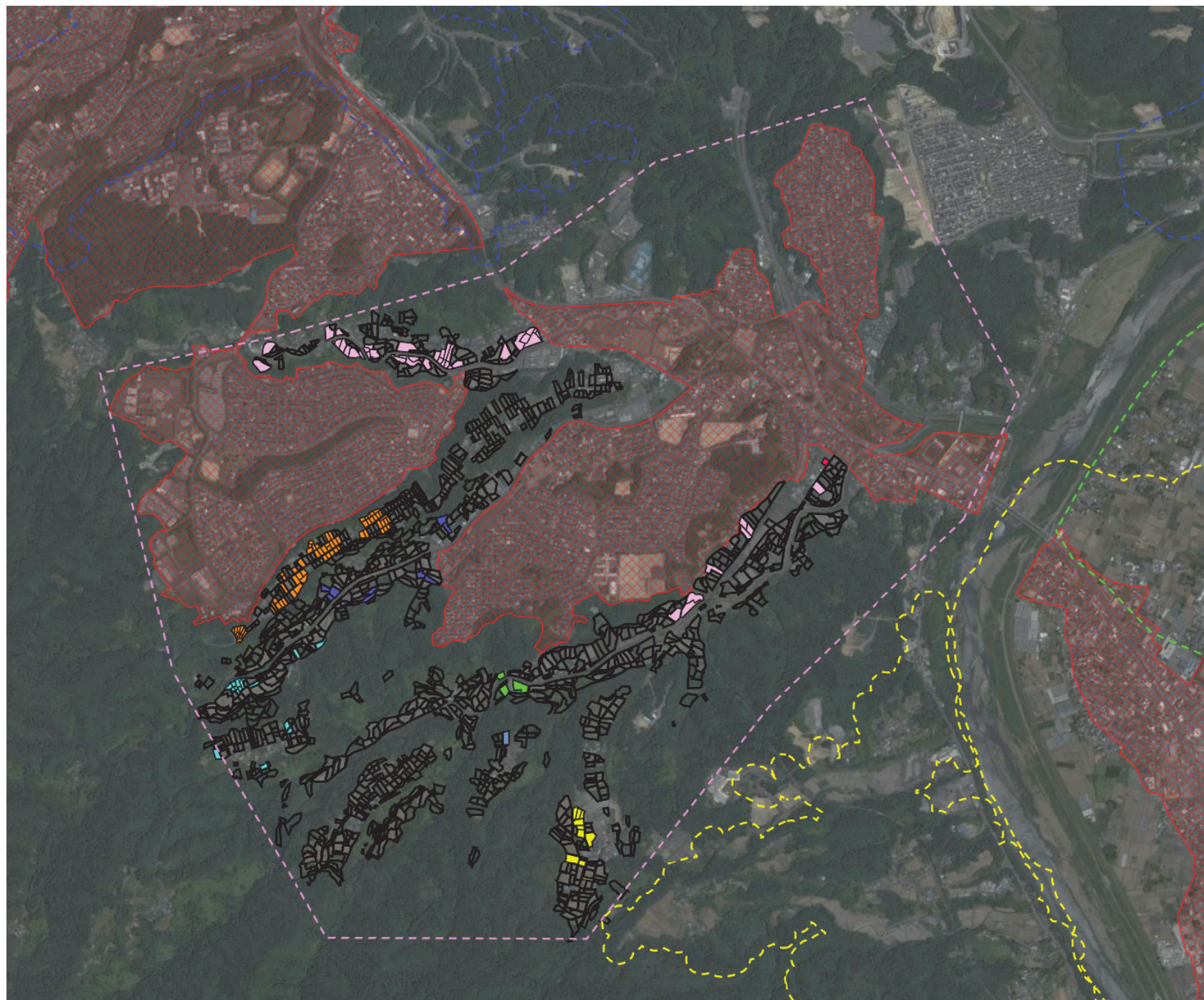
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報を保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。



目標地図(確定)

- 認農C
- 利用者D
- 利用者G
- 利用者E
- 利用者F
- 認農A
- 利用者A
- 認農B

目標地図【大南1（上判田・中判田・下判田）】